

弘津 公子 HIROTSU Kimiko

研究分野：応用栄養学

キーワード：地域在住高齢者、咀嚼能力、栄養状態、ADL



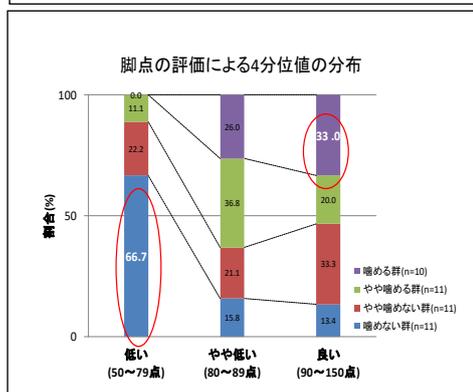
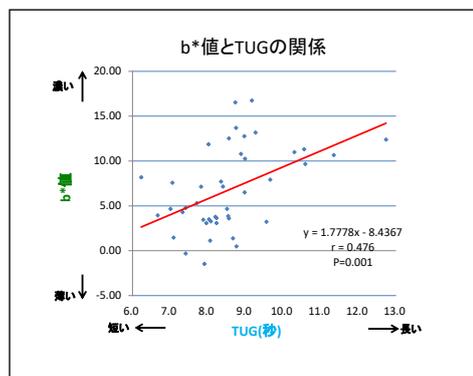
研究トピックス：

地域在住高齢者における 咀嚼能力・栄養状態・ADLに関する検討

研究の要旨：

高齢者では、加齢に伴い心身機能が低下し、虚弱（frailty）となることが問題視されています。中でも身体状況が低下し低栄養状態となる前に、口腔機能の低下が認められると考えられています。

我々は、このことに着目し、「咀嚼力判定ガム」を用いて、地域在住高齢者の咀嚼力を客観的に評価すると共に、栄養状態や歩行能力、並びに、下肢筋肉量との関係を検討しました。「咀嚼力判定ガム」は、咀嚼することでガムから色素が溶け出し、唾液と混和することにより赤色となります。咀嚼力の低下した方や残存歯の少ない方は、上手に咀嚼できないためガムは赤色に変化せず、b*値が高くなりません。本研究では、ガムの色調変化とTUG（応用歩行能力）と脚点（下肢筋肉量）に関連のあることを認めました。咀嚼力と歩行能力に関連のあることを報告したのは、我々が初めてです。さらに、韓国での共同研究においても同様の方法を用い、日本と韓国の地域在住高齢者の比較検討を行いました。



主な関連業績：

弘津公子：栄養と長寿—口腔機能と栄養状態からの検討，地域の百寿者 日韓米の比較，東洋図書出版 P108-117,2018

Eun-Kyong Kim, SUNg-Kook Lee, Makiko Tanaka, Kimiko Hirotsu, et al. Relationship between Chewing Ability and Cognitive Impairment in the rural elderly. *Archives of Gerontology and Geriatrics*, 70 : 209-213,2017

弘津公子，奥田正之：地域在住高齢者の咀嚼能力と介護予防検診との関係，第 58 回日本老年医学会学術集会，石川県金沢市,2016

[教員紹介へのリンク](#)

[教員データベースへのリンク](#)